

To the Next Stage

～**四中前進!**「**学び**」で一人一人の**Next Stage**へ～

9月号B面

9月25日発行



天童市少年の主張大会へ本校代表の弁論！

前進する四中生の感性や思考を感じてみてください！**演題「本当の幸せとは」**

「あなたは今、幸せですか？」

「どんな状態なら幸せだ、といえますか？」

現代のネット社会では自分が幸せだと感じた場面の写真を投稿したり、かっこいい自分の姿や特技を披露する動画をアップしたりする「幸せ自慢」があふれています。それを世界中の人々が共有して、私たちは「その人の幸せ度合い」を評価しています。そしてフォロワーやいいねの数が「幸せの価値基準」となり、投稿者の多くはみんなの共感を求めて必死に努力するようになっています。ネットへの発信に夢中になることで、いいねの数やフォロワーの数など、「数にとらわれること」になって本来の楽しみ方を忘れてしまったり、SNS上にあふれる「幸せ情報」に引っ張られ、自分が思う幸せの形がおかしな方向に変わったりしてしまいます。いつしか「幸せの形はこうでなくてはならない」という「幸せの価値観の押し付け」により、本来の自分の幸せを見失ってしまう人が多くなっていると感じます。これがネット社会の大きな問題だと私は考えます。

しかし、SNS上には上がらず、評価もされないけれど、大切な「小さな幸せ」もあるのではないのでしょうか。例えば、大好きな音楽を聴くこと、自分の勉強の課題や改善点をしっかりおさえて、次のテストに生かせたという成長を実感すること。このような小さな幸せは、身近なところにたくさんあるものです。

私は吹奏楽部に所属しています。苦しい練習が続き、辞めたくなくなったことが何度もありました。でも、仲間と音が合う瞬間の楽しさが私を支えてきました。今年の地区大会で納得いかない演奏で終わってしまった時の仲間との悔し涙が鍵となり、県大会までしっかりと練習し続けました。そして本番では会場いっぱいに美しい音を響かせ、演奏後は仲間も笑顔が輝き、自分の満足のいく結果が出せました。このような困難の中から得られる幸せもあるのです。苦しい状況から抜け出せず、すぐには幸せを感じられないからこそ、努力が報われたという瞬間が普通より何倍もの幸せを感じられると思います。そして、共に努力してきた友達や支えてくれた人への感謝の気持ちが、自分だけでなく、周りの人にも幸せを分け合えることができるようになるのです。そんな人同士の集団なら、きっとみんなの幸せにあふれる場所になるでしょう。

このように、小さな幸せは身近にあるものです。それを自分で見つけることができる人ほど、幸せを感じる人が多いと思います。そして、小さな幸せを実感できていることは、ネット上の幸せ自慢に流されず自分の生き方や意思をしっかりと持っている証拠だといえるのではないのでしょうか。自分の中で生まれる幸せは形のあるものだけではありません。「嬉しい」「悲しい」などといった自分の心の物差しをあやつって生まれるもので、自分のペースで自由に決めていいものなのです。また、誰かとの関わりの中で生まれる「友情」や「信頼」も、長い時間を積み重ねることで初めて生まれる「幸せの形」だと思います。日々の小さな幸せを感じた積み重ねが、自分の中に深く刻まれて、より多くの幸せを感じられる材料となります。生きていれば困難や苦しみ襲ってくる場合があります。そのような状況でも、自分をマイナスで見つめるのではなく、自分の個性をどのように生かすかをよく考えることが大切です。自分の個性を生かすことは自分自身にしかできないのです。自分の長所や短所を総合的に理解することで、誰かの幸せ基準に振り回されることがない自分自身の幸せが見えてくるはずですよ。

ネットの世界の幸せ基準に振り回される必要はありません。自身の幸せの形を信じ、他人と比べず、自分自身の生き方を探ることが大切です。決して、完璧な自分じゃなくていいのです。大きな夢がなくても、特別な才能がなくても、今ここにあるものを大切に作る心こそが、幸せになるための一歩なのではないのでしょうか。

9月2日（火）、天童市民文化会館を会場に「天童地区少年の主張大会」が行われました。国語の時間に弁論の書き方などを学習し、学級や学年の弁論大会を勝ち抜き、全校での弁論大会を1学期末に行いました。そこで、2年1組芦野ひなたさんと、3年1組後藤紅愛さんの二人を代表に選出しました。

この代表の二人は堂々とした態度で、地区少年の主張大会で熱弁を振るってくれました。村山地区ブロック大会へは進出できませんでしたが、素晴らしい主張でした。前進中の二人の主張を読んでみてください。

演題「自分らしさを見つける」

自分らしさって、何だろう。私らしさって、何だろう。ずっとそう思ってきました。今まで私には自分らしさがないのではないかと考えてきました。私は自分らしさを見つける努力もせず、自分を空っぽな人間と思ってきました。しかし、十四年間生きていて、きっかけを見つけられました。見つけるまではつらいと感じてしまうことも多くありました。それらができたのは自分らしさを見つけるきっかけがあったからです。

私は幼い頃から背が高いことと、生まれつきの頬の病気に悩まされてきました。「巨人だ」「ほっぺの菌がうつる」毎日同じことばかりを言われていました。「私はこんな気持ち悪い顔になんてなりたくなかった」「好きで背が高くなったんじゃない」と、そんなことを思いました。もちろん私自身のせいではないものの、周囲とは何か違う、異質なことだとてつもなく嫌でした。

外に出れば、笑われているんじゃないかと周囲の視線に敏感になっていました。そのため、両親に「外に出たくない」とわがままを言っていました。両親は私のわがままに対し、いつも「大丈夫」「思いのほか誰も気にしない」と言葉をかけてくれました。それなのに、私の悩みは両親にとってそんなにも軽く、たいしたことないのか、私に真剣に向き合ってくれてないのだろうか、と毎日考え込み、みんな私の気持ちはわからないんだと思い、私から悩みを話すことはなくなっていきました。

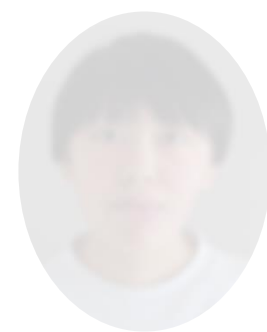
そんな状態が続いていた小学校高学年の頃、テレビを見てると、偶然、私と同じで顔に病気を患っている少年の小さい頃から成人になるまでの日常生活を撮影したものが放送されていました。私と同じで、物心つく前から痛みを我慢してレーザー治療に励んでいました。やはりその少年にも小学校、中学校と上がっていくたびに、周囲から病気について陰口やいじりがあったそうです。それでもレーザー治療に真剣に取り組んだおかげで顔のあざが目立たなくなりました。病気のあざが目立たなくなった後、少年はインタビューで「病気も自分らしさの一つ」と語っていました。

「病気も自分らしさの一つ」。今まで悩んできたことをなぜ自分らしさと思えるのか、不思議に思いました。それに比べ、私にはこれといった特徴も自分らしさありません。足も速くなければ、勉強も苦手で、自信もなく、人前で話すことすら精一杯。病気や身長のことでも重なり、否定的な考えばかりで、病気があるから苦しい、普通でないから辛いと思ってきました。しかし、私の考え方とは違い、少年は前向きで意欲的な考えをもっていました。このとき、私も自分らしさをもてる生き方がしたい、自分の経験から向き合うことを諦めず、将来ずっと背負っていく自分らしさを大切にしたい、と思いました。

私は最近までずっとこの身長が嫌で、猫背になって目立たなくなったり、頬の病気が嫌で、顔が隠れるくらいに髪を伸ばしたりと、隠すという方向に工夫をしていました。しかし、この頃は意識して背筋を伸ばし、私の好きな髪型を続けています。好きなことを隠さずにいれば、周囲を気にせずに過ごせ、以前より楽しいと思えることが確実にありました。

コンプレックスと思っていた私の病気や身長が、私自身が変わるきっかけをつくり、自分らしさをつくることができました。私の「自分らしさ」は何だろう。それは、マイペースで楽観的で人にはっきり言えることです。以前はネガティブで悲観的で人前が苦手でしたが、考え方や身なりを私自身が変えて、自分を新しく創ることができました。

たくさん悩んで苦しかった分、これからは、他の人の気持ちを尊重して、きっかけをつくる手伝いができるようになりたいです。そうすることで少しでも自信をもてたり、少しでも苦しみが救われたりすることを知ってほしいからです。私が自分らしさを貫こうと思ったのは、私と同じ病気の人、同じ思いの人、励まし続けてくれた両親がいたからです。私が一番伝えたかったことは、きっかけがあれば誰でも変われるということです。



3年1組

後藤 紅愛



2年1組

芦野ひなた

